

大人食堂にししないで

ここにいるよ

沖縄子どもの貧困

第4部 支援の現場から
(18)

子ども食堂⑦

県内にある子ども食堂で、
子どもが作ったお菓子を
食べて、食事はほめて食べ、よ
く遊んだ。

食事は代表者がこの子の友達
や地域住民に聞いてみると、家
族から「あの場所に行かないで」
と子ども食堂への出入りを禁止
され、来た子どもを来れない様
子だという。自宅での食事は菓
子やカップ麺が多いと話してい
た子どもも、「ちゅん」と食べ
ている姿が、たと心配する。

代表者は「貧困対策として注
目されるのが、子どもを遊ば
せる一因になつていないか」と
懸念する。遊ばせを広めようと
してチラシを配っていた時に

「うちが貧困じゃないので」と
断られたケースもあった。「子
ども食堂イコール子どもの貧困
というイメージが定着するや
う、特別な子が来る場所と思わ
れて、もっと子どもたちを
来やすい場所になるよう工夫が
必要だ」と話す。

別の子ども食堂は、来所する
子どもの少なさに悩んでいる。
開催時はボランティアや見守
る人の大人10人に、子ども
1人という日もあった。用意し
た食料が大量に余ったり、ボラ
ンティア希望者を断ったりする
こともある。

この食堂のスタッフは「貧困
の子のために何かしたいとい
う人が多いが、大人の思いが先
行してきている気がする。本当
に必要とする子どもが来ない
のか」と悩んでいる。

子の視点での運営呼び掛け



県内の子ども食堂。子どもたちと大人と一緒に食卓を囲む

県内の子ども食堂や同様の取
組みを営む場所は7月現在、
20カ所以上ある。昨年5月に県
内初の子ども食堂が開設して以
降、1年余りで急増に増えた。
熊鷹などにも開設され、県内全
域に広まっている。内閣府「神
子」の貧困対策推進事業「子
ども食堂」を推進する所も出てきた。
県内初の子ども食堂、NPO
法人もやま子ども食堂(沖縄
市)の鈴木友一郎理事長は「も
ともと子どもがひとりりで食事す
る児童の解消を目的に始めた。
と開設の経緯を説明。短期間で
の広がりについて「子どものた
めに何かがしたい」という人が多
いのは、沖縄社会のよさである
が、まだ間違っていないと強調する。

一方で「貧困という言葉の定
義もはっきりしない現状で、社
会からの期待が大きすぎる」と
戸惑う。「子ども食堂が子ども
の貧困という社会問題を解決で
きるのでは思っていない。食事は
手段の一つ、子どもを自立させ
ないための場所の一つになれ
ればいいのでは」と提言を語る。

公益財団法人子どもの貧困対
策センターあすのは(東京)の
子ども食堂「を運営する大子
生の三宅正太さんは、全体的な
現状として「子ども食堂という
名の大人食堂になつていない
か」と疑問を投げ掛ける。

大人の理想の子どもの像を押し
つけたがり、やっている大人向け
が充実感を感ずたりするものに
違和感を示し、「子どもが本当
に必要なとしているもの、本出に
したいけどもっと目や耳を向
けてほしい」と子どもの視点に
立つ運営の大切さを呼び掛け
る。(子ども食堂「取材班・
田嶋広隆」= 第4部おわり
第5部は8月に掲載します)